
題名のない短編小説 その2

彩月空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

題名のない短編小説 その2

【Nコード】

N7083C

【作者名】

彩月空

【あらすじ】

野球経験皆無の私が高校野球ものの小説を書きましたよ。前回は会話だけ。今回は、ほぼ1人の心情だけ、って感じですかね？

——地区大会決勝。

9回裏。

4—4。

2アウト、ランナー三塁。

サヨナラの場面。

ちくしょー。

こんなドラマチックな場面は要求してないぜ。

「4番、ライト——」

「じゃあ——っす!!」

だが、打つしかない。

2年なのに、4番に起用してくれた監督や主将の期待に応えたい。

俺のせいで、先輩たちの夏を終わらせるわけにはいかない。

小さく息をはいて、バットを構える。

俺が打たなきゃ、終わっちまうんだ!

1球目。

とにかく思い切り振った。

バットは、虚しく空を切る。

9回なのに、速えじゃねえか。

疲れてねえのか…？

1ストライク、ノーボール。

2球目。

…落ちる！！

チツという音がして、その後、キャッチャーミットがなった。

…フォークか。

やべ。

追い込まれた。

2ストライク、ノーボール。

3球目。

これは…外れるぞ。

よく見ろ。

ほーらね。

2ストライク、1ボール。

さて、次で決めてくるか？

俺はバットを構え、相手ピッチャーを睨みつける。

ピッチャーが、こくんと頷く。

さあ、来いよ。

……って、危ねっ！

思わずのけぞるほどの大暴投。

ふう…。

なるほど。

あっちも疲れてるのは、疲れてるんだな。

2ストライク、2ボール。

額の汗を拭う。

よし、来い。

……いい球！

うりゃ。

完璧に捕らえた……と思った打球は、はるか後方へ飛んでいく。

ファールだ。

ストレート…じゃなかったか。

曲がった？

……スライダーか？

くそ。

ちょっとだけずらされたな。

2ストライク、2ボール。

次はストレート。

また後方へ飛ぶ。

ファール。

ふう…。

2ストライク、2ボール。

そろそろ球威も限界か？

だんだんと、速度が落ちてきてるぜ？

——これで、どーよ？

ようやく前に飛んだが、これもまたファール。

くっそお…。

タイミング…か。

2ストライク、2ボール。

大丈夫、まだ集中力は切れてない。

落ち着け。

打てるぞ…。

ピクッ。

あつぶねえ！

危うくスイングするところだ。

得意のフォークだな。

ストライクからボールになる球。

2ストライク、3ボール。

さて、これで遊び球はもうない。

来いよ。

…ぐっ。

これで決めるつもりだったくらいの、重い球。

なんとかあてたが、これは後方へ。

ファール。

はあ…。

ここに来て、いい球放るぜ、全くよ。

…さて、今、何球目だ？

2ストライク、3ボールに、ファールが…3つ、あ、いや、4つ…
か？

ということは…

次が10球目。

ピッチャーの手を離れたボールが向かってくる。

入ってる。

これは、いける。

カキーン！

いい音っ！

見事なまでに飛んでいく。

…が、

ちっ、流されんなよ。

一瞬、ホームランだと思った俺がバカみたいだぜ。

ガッツポーズまで用意しちゃったじゃねーか。

ファール。

上空の風…か。

厄介だな。

くっそ。

今ので力使い切っちゃまったぜ。

やべーな…こりゃ…。

「打てー！」

「頼む！」

ちらっとベンチを見ると、先輩もタメのだちも後輩も、俺を見て声援を送ってくれている。

んな、懇願するような目で見んなよな。

…全く。

ん。いや、待て。

ベンチの仲間たちだけが見ているわけじゃねーよな。

今、俺と相手ピッチャーは、この球場内にいる全員の注目を浴びてるんだ…。

「ここ抑えろ！」

「頑張れ！」

「ピッチ、勝ってるよ！！」

「かっとなせー！」

「まったく、うるせーよ。」

「まっ、悪い気はしねえが…な。」

「うしっ。」

「次、決める。」

「力なんか残ってなくても、打ってやるぜ。」

「11球目。」

「打てるっ！」

「カーン。」

「あたりは…？」

「二遊間…！？」

「ちっ。」

「ショート、飛ぶな。」

ナイスプレーじゃねえか。

2アウトだもん。

ファーストに送ってくるよな？

くそっ。

一塁って、あんなに遠かったか？

視界の隅で、白球が飛んでくるのが見えやがる。

ここで、間に合わねえなら、こんな足いらねえ！！

俺は、このチームの4番なんだっ！！

これが、俺の仕事だあっつ!!

ズザァー。

はっ……はっ……。

ヘッドスライディングを決め、顔を上げる。

ファーストのやつも、俺と同様に、審判を見つめる。

俺は今、どんな顔をしているんだろうか…。

それは、果てしなく長い数秒間だった。

——ありえないくらいに湧き上がる、やたらうるさい歓声。

その歓声の中で、俺の頬を何かが伝った。

汗か、涙か……。。

それはただ、やたらに、しょっぱかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7083c/>

題名のない短編小説 その2

2010年10月11日00時29分発行